



特別講演 『試練は人を磨く』

読売巨人軍投手チーフコーチ補佐 桑田真澄氏

自分は、今年から読売巨人軍投手チーフコーチ補佐をしていますが、コーチという言葉の語源はハンガリー語のコチから来ており、大切な人を目的地まで送り届ける。一緒に夢に向かって挑み走っていく伴走者という意味から来ています。今の現役選手は、いろんなことができないのではなくて、方法を知らないだけである。それを一緒に考え教えていくのがコーチの役割だと思っている。



私は、中学3年の時は、投げるたび、敵なし・負けなしで自信満々でPL学園高校に入学しましたが、同学年の清原選手と出逢い体格とその能力に驚かされた。彼は当時187cm、私は172cmコンプレックスを感じてしまった。入学して4月・5月・6月とピッチャーをしていたが、打たれ続け監督に野手への転向を命じられ、母親に転校をお願いしやめるつもりでいた。その時母親が、何か必ずいい方法がある。絶対にあきらめてはいけなと。自分らしくいきなさいと言ってくれて、踏みとどまることができた。あの時初めて人生の挫折感を味わった。

また、巨人軍に入団一年目にわずか2勝しかできず2軍との行き来を繰り返し、かたや清原選手は、31本のホームランを打ち、新人王を獲得したのを、目の当たりにし、私は挫折を味わい、やめる決意をしていた。その年のオフに、アメリカ遠征を命じられ、いやいや参加した。現地で気乗りしないまま過ごしていたが、休日に須藤2軍監督にグランドキャニオン観光に誘われ、気乗りしないまま行った。

バスから降りることを強要されしぶしぶ降りてみてその風景をまえにすると、その自然の雄大さに驚かされ、自分の考えのちっぽけさが嫌になった。何を自分はグダグダ考えているのか。やれることを全てやってからでも辞めるのは遅くないと思い、帰国してからは栄養学やトレーニングの本をむさぼり読んだ。この時の挫折がなかったら今の自分はないと思う。

また私は、短期間集中型だと思う。毎日少しずつコツコツ努力するタイプだと思います。自分に勝てない奴は、人との勝負には勝てないと思います。

試練とは、私は挑戦だと思っています。私はマウンドに上がるたび恐怖と不安に襲われます。そんな時私は自分に問いかけるのです。お前、こんな自分でいいのか。勝負しろよと自分を鼓舞するのです。自分の一番の応援者は、自分自身です。

不安だからこそ、それをエネルギーにかえて前進できるのです。それがまさに試練は人を磨くということです。

私は、野球を通して、道具を大事にする心、また礼儀を大切にする心を学ばせていただきました。私は、現在53歳、野球でいえばまだ6回途中……まだ勝利投手にはなっていません。ゲームセットの声を聴くまでは、自分を信じてあきらめない心を持ち続けていきたいと思っています。